

徳永製菓が2月の新作

「まるつと苺ちよこ」

豆菓子など製造の徳永製菓（福山市胡町四一、上迫豊社長）は、2月の新作菓子「まるつと苺ちよこ」を販売している。

フリーズドライのイチゴをチョコレートでコーティングした品。ボリューム感のあるイチゴを丸ごと使い、甘酸っぱい味わいとチョコレートの



甘さがマッチしている。
コーティングはホワイトチョコレートとストロベリーチョコレートで、仕上げに「あまおうパウダー」を振りかけた。二層構造で、断面も美しい商品となっている。

昔懐かしい豆菓子をはじめ、フルーツ味のカラフルな豆やナッツの菓子を製造販売する

同社直営の豆徳本店（同

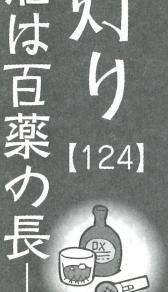
所）で販売中。七〇グラムで税込み五四〇円。▼問 **084-973-7222**

夕暮れの灯り

[124]

—カラオケと酒は百薬の長—

今田 昭和（いまだあきかず）



この物語は日記や記憶を

について話している。

もとに創作し、コミカルタッ
チで、つづったものである。
話は時として飛んだり、ひつ
くり返るが、ご容赦願いたい。

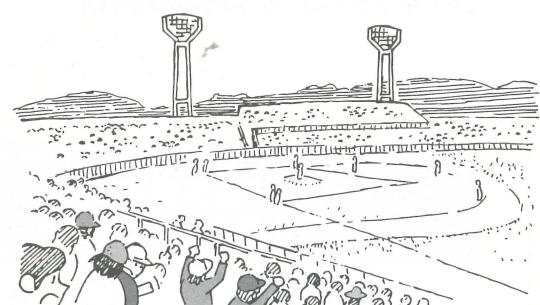
「新球場へ心躍る」(4)

昨年の10月某日の午後。友人でカープ狂のFが家にやつて来た。で、私たちの興味をそそったある本の読後感を書いた。新聞に出ていた『ふくやまスポーツパーク構想』など

「福山市民球場で最後にな

本は『わしらの街にカープを連れてこい』。昨年3月に幻冬舎から発行された小説で、福山の競馬場跡地にプロ野球の公式戦ができる球場を、と主人公の青年が奮闘する物語だ。新聞記事は、広島経済同友会福山支部の提言。同跡地の近辺にプロ野球（公式戦）や、サッカー、ラグビーなどが楽しめる施設を整備する、というものだ。

その試合は、2010年の6月にあつたオリックス戦。スコアは忘れたが、オリックスがプロ野球記録の一〇〇連続安打を記録したセ・パ交流戦であった。以後、1985年の大洋ホエールズ戦からほぼ毎年一回、同球場であつたカープの公式戦は行われていないのである。



は一万六〇〇〇人。福山市民球場に比べ両翼は六倍広いが、収容数は五四七人多いだ

実践したかもしだれんど
私の話に耳を傾けていた
Fが口を開いた。

「本にあったこと」とは、

球場の建設を促すチラシ配り。そういうえばFもチラシの作成を考えていた時期があつたが、実行するには至らなかつた。

「小説も提言も、福山でカープの一軍の公式戦があれば街が盛り上がる、と

している。同感じやあ。『にぎわいの創出』に一役買うこととは間違いないのだが……。Fは独り言をつぶやきつつ、「福山で年間三試合ほど開催すればええのう」と胸を躍らせる。

「若かつたら、本に書いてあつたようなことを、わしも

つづく